

令和7年第3回総合教育会議 会議録

東員町教育委員会

- 1 開 会 令和8年2月24日(火) 午前 9時00分
- 2 閉 会 令和8年2月24日(火) 午前10時00分
- 3 場 所 東員町総合文化センター 第1研修室
- 4 出 席 者 町 長 水谷 俊郎
教育長 日置 幸嗣
教育委員 向山 節雄
教育委員 松宮 あけみ
教育委員 川瀬 理絵
<事務局> 事務局長 中村 幹人
教育総務課長 末永 泰介
学校教育課長 三林 大高
社会教育課長 丸山 太
教育総務課課長補佐 種村 大輔
- 5 会 議 事 項 別紙のとおり
- 6 会議録調製者 教育総務課課長補佐

(別紙) 会議事項

1 開会の辞

(事務局長)

ただ今から、令和7年度第3回東員町総合教育会議を開会いたします。
それでは、町長、お願いいたします。

2 町長挨拶

(町長)

皆さん、おはようございます。先日の選挙では、真偽の定かでないネット情報によって若い世代が大きく動いていることに非常に危惧を感じました。

ギガスクール構想で子どもたちもネットに触れていますが、情報の把握や正誤の判断を正しく教えていかないと、大人までもが翻弄される現状は非常に危ういと実感しています。ネット上の偽情報に対して、どのような対策が必要か、当町としてどう取り組んでいくべきか、教育長にも、しっかりと考えてもらいたいと思っています。

3 教育長挨拶

(教育長)

おはようございます。町長からネット情報の課題について宿題をいただきました。オーストラリアでの16歳未満のSNS禁止や、豊明市での利用制限など、ある程度の規制の動きがあります。規制は必要と感じますが、それだけで解決するものではないとも考えています。

先日、教職の大先輩方と懇談した際、「事実に基づいてきちんと判断し行動できる力」、そして「正義や大義を考えて動ける人間」を育てなければならぬと改めて痛感しました。これがネット問題にも通じるのではないかと考えております。

しかし、現代の教育現場は非常に難しい時代にあります。私たちが大切にしてきた「員弁の教育」、すなわち「目の前の子どもの姿から出発する教育」という原点が、多忙な現場では十分に引き継がれていない現状があります。課題が多すぎて本質が見抜けなかったり、教員の人材育成が追いつかなかつたりと、多くの困難を抱えています。

来年度は、この原点を全員で再確認し、各学校が個別に頑張るだけでなく、学校間の連携を一層深めたい。他校の良い取り組みを「切磋琢磨」しながら取り入れ、幼稚園・保育園から小中学校までが一貫して繋

がる体制を再構築し、低年齢化するネットトラブル等の課題にもしっかりと対応していきたいと考えております。

また、先日提案した教育施策大綱案には5名の方から21項目の貴重なご意見をいただきました。これらを真摯に受け止め、より良い大綱を完成させていきたいと思っております。

3 事 項

(事務局長)

ありがとうございました。

それでは、協議事項の方に入らせていただきたいと思っております。教育施策大綱(案)について、教育総務課長の方から説明をおねがいします。

(教育総務課長)

それでは、教育施策大綱(案)に対するパブリックコメント及び、内容についてご説明いたします。

本案へのパブリックコメントにつきましては、1月16日から2月13日までの期間で実施いたしました。その結果、5名の方から21項目のご意見をいただいております。ご意見は本町の教育充実を願う建設的な内容であり、大綱の表現の分かりやすさ、地域状況に応じた対応、目標の具体化、施設活用など多岐にわたりました。教育委員会としてはこれらを真摯に受け止めておりますが、大綱はあくまで教育の理念や基本的な方向性を示すものであるため、個別具体的な施設活用や事業計画については、それぞれの個別計画で位置付けるものと考えております。

その中で、大綱に修正を加えた2点についてご説明いたします。

1点目は基本理念についてのご意見です。「理念は『誰一人取り残さない教育』のままでも良いのではないか」というご意見をいただきました。この「誰一人取り残さない」という表現は大綱独自の理念というより教育分野におけるSDGsの普遍的な考え方として整理しました。その上で、前大綱の理念の重要要素である「自立・共同(共生)・創造・規範・健康」をすべて継承しつつ、よりメッセージ性を高めた「誰もが自分らしく輝き、深い共感と思いやりので、未来に拓く力を育む教育の実現」を基本理念に掲げることといたしました。

2点目は、不登校対策についてのご意見です。「児童生徒数の減少を目標にするのではなく、居場所の確保や支援体制の充実を目標にするべきではないか」という、当事者の立場に立った丁寧なご指摘をいた

できました。これを受け、単に減少を目指すのではなく目的をより明確にするため、「学校へ行くことだけをゴールにせず、学びの継続を重視する」という方針のもと、オンライン授業の活用や校内教育支援センターの設置促進、フリースクールとの連携強化、そして安心して過ごせる居場所や相談支援体制の充実に努めるという表現へと全面的に修正いたしました。

他のご意見につきましては、実務的な位置付けとなっておりますので、今後の取り組みの参考とさせていただき、本町教育のさらなる発展につなげていきたいと考えております。

以上でございます。

(教育委員)

大綱(案)を5人の方がしっかりと読み込み、21項目にわたって真摯に意見を出してくださったことに驚きました。どれも丁寧に指摘されており、町民の方も、これほど真剣に考えてもらっていると非常に嬉しく思いました。

特に不登校について「単に減らすことが目的ではない」という本質的な指摘は、前回気づけなかった点であり、非常に新鮮で勉強になりました。

(教育委員)

不登校という言葉を保護者の立場で聞いた際、この文面からは、誰が悪いという責任追及ではなく、保護者・学校・社会のみんなの力が合わさってこそ解決できるものだ、という認識が感じられ、その点がすごく良いと感じました。

(教育委員)

私も不登校の修正案にある「学校へ行くことだけをゴールにしない」という文は、非常に良い視点だと感心しました。

(事務局長)

ありがとうございます。他にご意見がなければ、この案で進めさせていただきます。

続いて、事項の(2)教育施策(令和7年度東員町教育基本方針)の取り組みについて、各課の課長より、取り組みの説明をお願いします。

<各課長、教育基本方針で取り組みを説明>

各担当の方からご説明をさせていただきましたが、何かご意見ございますか。

(教育委員)

ご報告への全体の感想としては、子どもを安心して預けられる、住み良い町だという印象を受けました。しかし、実際に起きている問題として、やはりスマホやネットの影響が非常に大きいと感じています。社会教育課で実施された『正しいスマートフォンの使い方講座』や、学校でのパンフレット配布などの啓発は行われていますが、子どもや保護者が抱えるリアルな悩みにもう少し踏み込む必要があるのではないのでしょうか。

こちらが想定していることと、実際に保護者が直面している問題にはズレがあるように思います。例えば今の時期、町内の店舗などに行けば「スマホ」のキャンペーンが目に入り、子どもたちは新学期を前にどうしてもスマホを欲しがります。こうしたタイミングで、「本当に今持つべきものなのか」を親子で真剣に考える機会を、学校などで設けていただければと思います。

スマホで問題を抱える家庭の改善に向かえるような、より実態に即した講演会などが増えていくことを期待しています。

(教育長)

各学校でも、講演会や学習会には一定取り組んでいます。特に多くの学校が招聘している兵庫県の篠原先生は、サイバーセキュリティや警察の知見を持って活動されている方です。

中学校では保護司会のご支援のおかげもあり、毎年必ずお話を聴く機会を設けています。最近では小学校でもこの先生を呼ぶ学校が増えてきました。

この先生のお話が非常に興味深いのは、常に最新の情報をアップデートされている点です。子どもたちに「これ知ってる人？」と聞くと、我々大人が知らないようなものに子どもたちが一斉に手を挙げます。そのゲームアプリの危険性や「こういうことは犯罪だよ」というメッセージを非常にリアルに伝えてくださいます。

以前、PTAでお呼びした際も、保護者に対して「スマホの設定のここを有効にしていると、個人情報漏れますよ」との具体的に指摘し、

現実に切り込む話をしてくださいました。

こうした啓発は重要ですが、学校での指導には限界もあります。最終的に私が申し上げたいのは、「子どもに与える以上は責任を持つ」ということを保護者に訴えなければならないということです。

友だちが持っているからとスマートフォンを与えたものの、フィルタリングや見守りが徹底されず、結果として子ども任せになってしまっている状況も見受けられます。便利さの追求だけでなく、保護者の皆様にもわが子のスマホ使用に主体的にかかわっていただく必要があります。

今回作成したスマホの手引き版もその啓発の一つですが、子どもと共に保護者がもっと危機感を持てるような働きかけが、今後ますます必要だと感じています。

(教育委員)

現場では、多岐にわたる取り組みがなされており、多大な労力がかけていることがよく分かりました。その中で、各学校間で交流しながら、「今年はこの点についてレベルアップしていこう」といった明確な目標を絞って取り組んでいただくことも、職員の意欲と教育の質向上に繋がるのではないかと考えています。

(教育委員)

教育の基本方針として素晴らしい冊子が作られていますが、内容が多く、一般の人には読みづらい面があるかもしれません。これとは別に、町民が「今年はこれに取り組むんだ」と一目で分かるような、重点を絞った簡潔なものがあると良いのではないかと思います。

教育現場はどうしても「良いことは全部取り入れよう」としてしまい、取り組みが中途半端になりがちです。年に一つか二つでもいいので、全園・全校で一致して取り組める重点目標を明確に示すことが大切だと感じます。

(事務局長)

冊子の見やすさに関するご提言、ありがとうございます。令和8年度に向けて、重点的に取り組む事項を明確に打ち出していく方向で改善に努めてまいります。

4 閉会の辞

(事務局長)

それでは、これをもちまして、令和7年第3回総合教育会議を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。